

第1回生産者大会開かれる

6月23日金曜日 午後5時開始

表彰式 アレンジ講習会 大懇親会賑やかに終わりました

同志会新聞

発行者 生産者同志会
(株) 都城園芸花市場

発行日 H18.8.31

編集責任者
原田 修作



アレンジ講習会風景 センスの問われる時間

食卓を自分の手で飾ろう



平成17年度 躍進賞 吉永 直樹様
野尻町 菊生産者 元市場職員



平成17年度最高売上 長ヶ原 典雄様
末吉町 薔薇生産者

平成17年度売上 表彰式

あいにくの雨模様の中での生産者大会でありました。四十名ほどの生産者の参加を頂き、定刻に始めることが出来ました。

同志会代表の川添会長・都城園芸花市場の小倉洋子社長二名のあいさつに続き、表彰式を行い、前回号でお知らせした皆様方が表彰を受けられました。

例年菊の生産者が上位表彰を独占しておりましたが、本年は、薔薇生産者の長ヶ原様が最高売上の表彰となりました。

又、一昨年まで当市場の職員として頑張っておりました、吉永直樹さんが菊生産を始めて二年目で躍進賞を受賞されました。今後益々活躍されることをお祈りいたします。

今回の表彰で鉢物生産部門が、授章対象者が少なく苗物価格低迷の影響と我々も責任を痛感したところで、今回授章されました皆様方に心よりお慶び申し上げます。

アレンジ講習会と同時スタートで焼肉大会を行いました。アレンジ講習会後の方が多く、アレンジ講習会後の懇親会となりました。

ほとんどの参加者が懇親会までお残りいただき、ビールが不足するやら、焼酎が足りないやらで、大変な盛り上がりのある懇親会となりました。

遠方の方は、都城市内にホテルを確保しての、懇親会に有難うございました。

参加されたご婦人方同士、懇談されていた光景をみて、計画してよかったと、喜んだ次第です。

最後に、本年度最高売上表彰者の、長ヶ原典雄さんに締めめの言葉を頂き、お開きと致しました。



大焼肉大会

盆アレンジ講習会

七月十七日(月)

市場と買受人組合で合同

去る七月十七日(月)午後七時より、市場セリ場にて、盆向けアレンジ講習会を、買受人組合と市場合同で開催しました。

テーマを「盆提灯を盆飾り供花に」と設け、花消費拡大に役立てばと言うことでの、講習会の開催でありました。

講師に鹿児島市のフローリストリパティ店主の永田龍一郎氏をお招きし、多くの参加を頂き盛会な講習会となりました。



約80名の参加者



アロハシャツのセリ子

アロハシャツ

七月二十四日月曜日のセリから、セリ人四名はアロハシャツに麦わら帽子のいでたちで、セリを始めました。

セリ場が少しでも賑やかになり、セリの活気を期待して行なった今回の企画です。

始める前は、不安もありましたが、買受人にも好評で、その後活発に取引が行なわれております。???

八月いっぱいはこのスタイルで行けるでしょうか、九月以降どうでしょうか、考え中です。……

元気を出すのには、格好も大事のようです。

皆さんも、気分転換に、いつものスタイルをチョット勇気を出して変えて見ませんか。ヒョットして新しいなにかが見えるかも???

セリ人試験合格

都城市公設地方卸売市場
業務条例 第十二条四項第六号に、セリを遂行するに必要な経験又は能力を有し……
五項 市長は、前項第六号の経験又は能力の有無の認定のため規則で定めるところにより試験を行なうものとする。

現在まで、都城園芸花市場には、三名のセリ人試験合格者が下りましたが、実務経験を十分に積んだ二人が今回、セリ人試験に臨みました。

筆記試験は百点満点の六十点以上を合格する。との規則もあり、勉強の結果、今回受験の二名が見事合格いたしました。

下西真一郎



昭和五十四年十二月三日生まれ
現在 二十七歳 2児のパ

渋谷賢治



パ
市場在籍 年数九年
第一営業課主任
現在 切花市四号レーンで、主にバラ、球根類を販売

昭和四十八年九月十一日生まれ
現在三十三歳 訳在って現在在独身
市場在籍年数 五年
第二営業課主任
現在 主に鉢物市二号レーンで苗物を中心に販売

今後の二人に期待して下さい。ちなみに、一人とも満点に近い点数で合格したようです???

八月四日金曜日のセリから盆商戦に突入したが、一番最初に感じたのが、小菊、スプレー菊の入荷量が少ないな！

日毎入荷比較表でわかるように、金曜日、月曜日、水曜日とスプレー菊の入荷量が前年に比較して少なかった。小菊も週間を通じて入荷量の減少は続いた。

取引価格は、品薄による単価高となった。

入荷量の減少の原因で、小菊は生産量の減に合わせ

本年の盆商戦は、全体的に品物不足感の漂ったのが第一印象の盆であった。

盆商戦



スプレー菊は国内産の在来品種（イエローシユーズ）等の入荷が少なくポリウム感に欠ける入荷となった。スプレー菊全体の中で輸入物の入荷量が大きなウエイトを占めるが、本年はマレーシア産の入荷が大きく減少したように思われた。

輸入業者からの情報によると、七月後半から国内単価が高かったため通常の出荷となり、需要期の盆に向けてのストックがなされたことが、結果的に需要量をまかなうことが出来

て、高温による開花の遅れが重なり入荷量の大きな減少につながっております。

なかった原因のようです。話を聞くとところによると、マレーシアの産地も野菜生産に力を注ぎはじめています。これまでこの様に大量な荷物の入荷なくなるのではとの声が聞こえてきております。

スプレー菊の取扱数量は十二万本でうち輸入マム（マレーシア・韓国・中国）が五万六千本、週間を通じて見ると輸入マムは昨年より五百本の入荷の減となり、単価は六円アップとなりました。

国産の入荷は六万四千本で

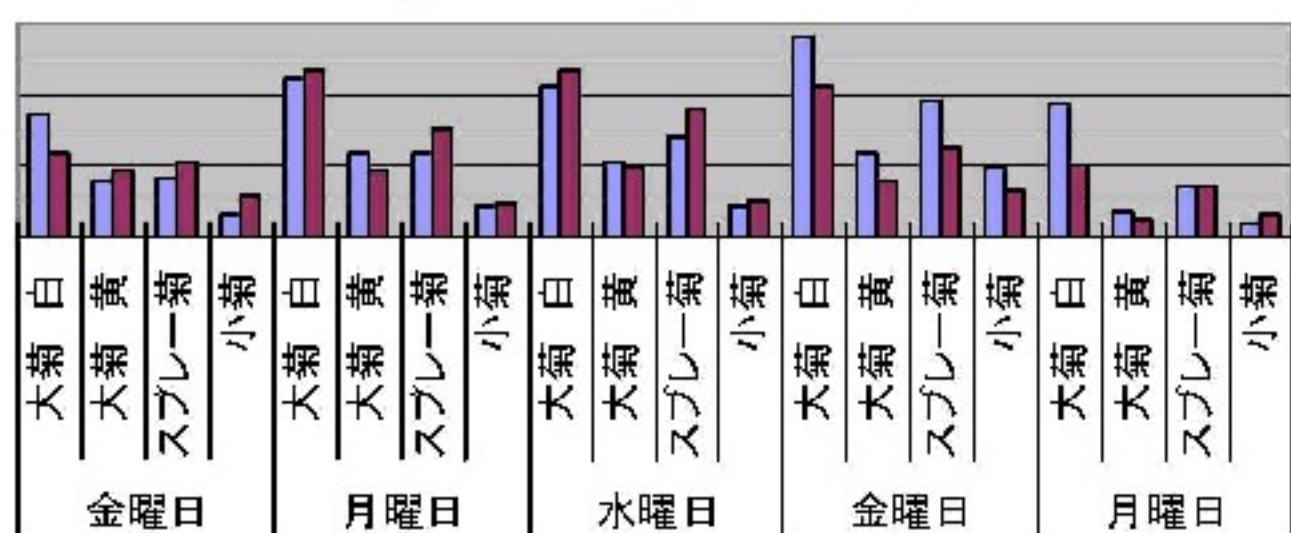
単価十二円アップとなりました。このことから入荷量六%減で単価十五%アップとスプレー菊の引き合いの強さを示した盆商戦であった。

盆商戦期間の過去五年の実績を見ると、平成十六年には小菊の入荷量を輸入マムの取扱量が上回ってきた。輸入量の増加と言うより、小菊の生産量が減少したと言うことであります。

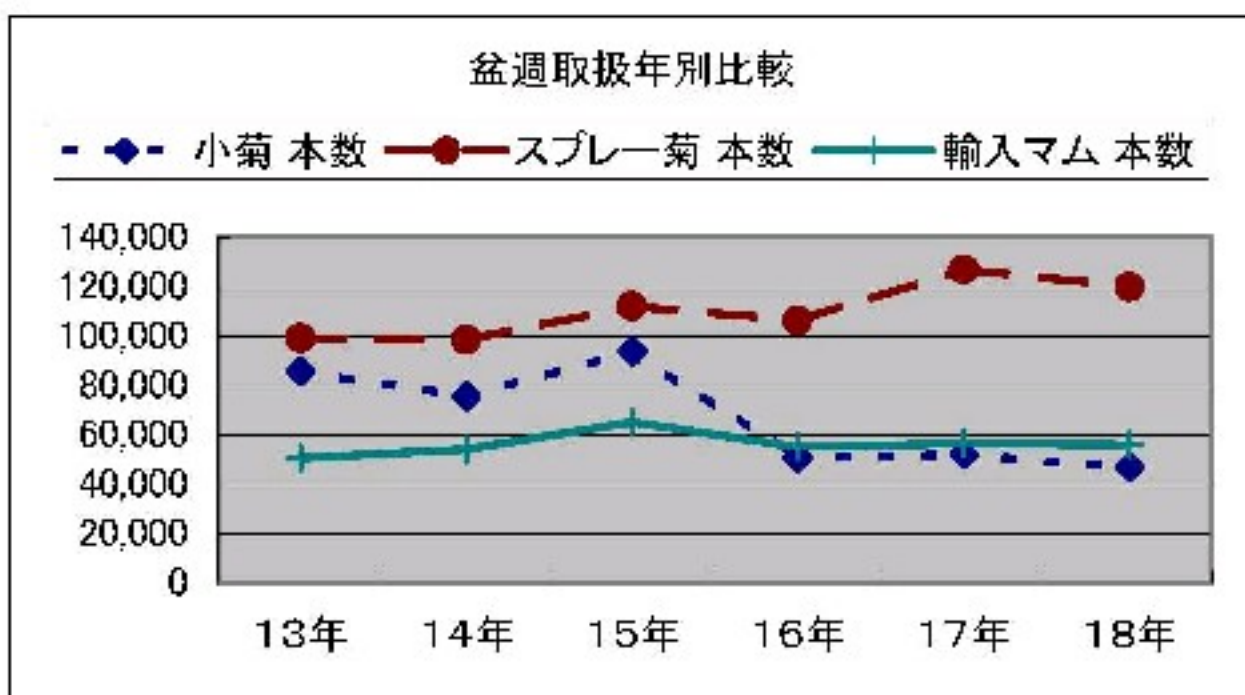
グラフで見ると輸入マムは過去五年間ほぼ増減無く入荷しており、スプレー菊の取扱増は国産品の増加

日毎入荷比較

■ 18年 本数 ■ 17年 本数



盆週菊類日毎取扱変化



平成16年より小菊の入荷を輸入マムの入荷が上回った

単価小菊13年41円 14年43円 15年29円 16年33円 17年37円 18年51円

スプレー菊 63円 69円 58円 50円 60円 69円

輸入マム 65円 78円 62円 51円 67円 73円

によるものとお分かりいただけるでしょう。

菊類以外で、本年の取引の特徴は、盆アレンジ用のヒマワリ・ガーベラ等の引き合いが強かったのが目につきました。

又、盆と関係ないであろうと思われた、バラが単価を上げたのも一つの特徴であろうと思います。

取引の中でWeb販売は好調な動きをみせた。特に品薄感のある、白大菊・黄大菊・スプレー菊・小菊

は入荷数量の一割を超える取引となった。

特に、小菊・スプレー菊は取扱数量の二割近い取引となり、引き合いの強さを見せた。

スプレー菊・小菊も入荷情報が出ると少し早くなるから、物日の販売にWeb販売は威力を発揮するであろうと思います。

今年の盆商戦を振り返って、当社の取扱量は増加したが、生産量の減少を肌で感じる盆の週であった。

ぶらり
洋子

長雨が続き、日照不足が業界に大きな影響を与え、又、高温の天候のダブルパンチ・・・

しかし、暦は夏を告げ、祭り(六月灯)の花火があちこちで上がり、神輿や山車で賑わっている。

幼い頃、縁日を歩きながら、少ない小遣い銭で綿菓子や、金魚すくいをしたことを思い出す。

しかし、その中でアイスキヤンデー、五円か十円だったと思うが、それだけは買うことが許されず、今もってくやしい！
友達が、食べているのをきくと、ヨダレをたらしながら見ていたのだろうと思う。

それと、紙芝居の水あめ、見かねた紙芝居のおじさんが、少しだけくれた水あめを喜んで母親に見せたら、取り上げられ「食べちゃだめ」と言われたのを思い出す。

あの水あめはどこに行ったのだろう・・・
今の若者には解らないだろうが、その時代不衛生なものが多かったのだろう。



今年十月六日が十五夜。

大きな月が、澄んだ夜空にぽっかり浮かんだ月をめでる。

日本には古来からの、ロマニチックな風習がある。

“うさぎ うさぎ 何見て

はねる 十五夜お月さん見てはねる”

幼い頃、月の中にはうさぎがいて、餅つきをしていると、親から教えられ、一心不乱に月を眺めていたのを覚えてる。

月見団子を作り、芋や栗などを盆にのせ、ススキを一本瓶に飾り、縁側から月を眺めた。

浴衣を着せてもらい、その頃の私は“可愛いと”・・・
子供の時可愛いと、大人になってなぜか・・・



彼岸という言葉は、実は向う岸の意味で、悟りの世界、彼方の岸と言うことらしい。

お墓参りも、亡くなった、愛しい人を書いて、ご先祖様に日々の暮らしを感謝。

いつか死に、子孫にとって

我々は先祖になるのです。その子孫に墓参りを継承する事も、私達の指名かもしれない、花を飾ることも。

誰も参りに来てくれない墓なんて、さびしい！

だって、向こう岸に行った者は、子孫の生活を見守っているのだから。

又、彼岸とは仏教行事だけではなく、一種の太陽信仰だそうです。

暑さ寒さも彼岸まで。

ちなみに、春はぼたもち(牡丹餅) 秋はお萩・・・

今回は食べ物に話が向いてますが、お腹がすいてきましてので、・・・

今回の“ぶらり 洋子”終わります。

話よ
話

市場のカウンターの前に“めだか”が生息している。

管理者は市場女子職員。

“めだか”がカウンターの上に生息を始めたのは、確か六月。



最初に登場した“めだか”は“黒めだか”。

その“黒めだか”が産卵。産卵した卵は、別の水槽に。

毎日の朝一番のお仕事。時期を同じく、別のところから、“赤めだか”が持ち込まれる。

“黒めだか”の赤ちゃんはと言うと、“赤めだか”との生存競争に負けた。

現在は、“赤めだか”五匹生息中

管理者の話によると、“赤めだか”は人懐っこいのだそうで、水槽に人影が写ると餌をねだるそうである。

ちなみに、“黒めだか”百円 “赤めだか”五十円だそうである。

毎朝、カウンター越しに、買受人さんと“めだか”談義が十五分程度。

セリ終了後、十五分程度“めだか”談義。

不思議と“めだか”前では、みんな和やかな感じ。

編集後記

本日八月三十一日、同志会新聞発行予定日、何とか滑り込み出来そうです。

本当に季節のめぐりは早いもので、お盆、お盆と言っていたのが、敬老の日、彼岸。

産地では年末用の菊の定植準備作業が始まり、あっと言う間に一年が過ぎます。

台風十二号が発生したようです。なんと、ハリケーン「イオケ」が東経百八十度線を越えたために台風となるのだそうで。

米軍の予想だと、来週末位に日本に・・・との予想が出てます。

気象庁の台風情報で勢力は猛烈との記事があります。アメリカ生まれは何でも凄いですね。

でも日本に近づく三日位には非常に強い勢力との記事です。日本の港に着く頃は弱まっていることをただ祈るだけです。